

## 中間評価シート

### 中間評価（表紙）

#### 三好市歴史的風致維持向上計画(平成31年3月26日認定) 中間評価(平成31年度～令和9年度)

■ 統括シート(様式1)	.....	2
■ 方針別シート(様式2)		
I 歴史的な建造物の保存と活用に関する方針	.....	3
II 歴史的な建造物の資材確保に関する方針	.....	4
III 歴史的風致を形成する周辺の景観整備に関する方針	.....	5
IV 民俗芸能の継承と担い手及び伝統技術者の育成に関する方針	.....	6
V 歴史的文化遺産の掘り起こしと価値づけに関する方針	.....	7
■ 波及効果別シート(様式3)		
I 観光交流客数の増加	.....	8
■ 代表的な事業の質シート(様式4)		
A 登録有形文化財「山下家住宅別邸」保存修理事業	.....	9
B 祖谷の蔓橋架け替え資材確保事業	.....	10
■ 歴史的風致別シート(様式5)		
1 吉野川支流祖谷川流域に残る歴史的風致(祖谷)	.....	11
2 吉野川上流域に残る歴史的風致(大歩危小歩危)	.....	12
3 吉野支流馬路川に残る歴史的風致(池田町佐野)	.....	13
4 吉野川中流域に残る歴史的風致(池田町及び井川町)	.....	14
5 吉野川支流河内谷川に残る歴史的風致(三野町)	.....	15
■ 庁内体制シート(様式6)	.....	16
■ 住民評価・協議会意見シート(様式7)	.....	17
■ 全体の課題・対応シート(様式8)	.....	18

市町村名	三好市	評価対象年度	H31～R5年
<b>①歴史的風致</b>			
	歴史的風致	対応する方針	
1	吉野川支流祖谷川流域に残る歴史的風致(祖谷)	I・II・III・IV	
2	吉野川上流域に残る歴史的風致(大歩危小歩危)	V	
3	吉野支流馬路川に残る歴史的風致(池田町佐野)	V	
4	吉野川中流域に残る歴史的風致(池田町及び井川町)	I・V	
5	吉野川支流河内谷川に残る歴史的風致(三野町)	I	
<b>②歴史的風致の維持向上に関する方針</b>			
	方針		
I	歴史的な建造物の保存と活用に関する方針		
II	歴史的な建造物の資材確保に関する方針		
III	歴史的風致を形成する周辺の景観整備に関する方針		
IV	民俗芸能の継承と担い手及び伝統技術者の育成に関する方針		
V	歴史的文化遺産の掘り起こしと価値づけに関する方針		
<b>③歴史まちづくりの波及効果</b>			
	効果		
I	観光交流客数の増加		
II	地域文化遺産の掘り起こしによる地域活性化		
<b>④代表的な事業</b>			
	取り組み	事業の種別	
A	登録有形文化財「山下家別邸」保存修理事業	歴史的風致維持向上施設の整備及び管理	
B	祖谷の蔓橋架け替え資材確保事業	歴史的風致維持向上施設の整備及び管理	

市町村名	三好市	評価対象年度	H31～R5年																				
方針	I 歴史的な建造物の保存と活用に関する方針	今後の対応	継続展開																				
<p><b>①課題と方針の概要</b></p> <p>【課題】個人管理による建造物は、維持経費に係る負担が重く、改修等の保存事業が進まず一層老朽化が進んでいる。また歴史的な建造物が空き家として増加する要因として、近年の少子高齢化や、若者の都市流出が進んだこともあげられる。これにより空き家は増加し続け、歴史的建造物の維持保存が難しい状況となっている。</p> <p>【方針】指定、登録等を行った文化財については、保存状況を適宜把握し、良好な保全が図られるよう所有者等に適切な指導と助言を行う。また、老朽化が進んでいる建造物については、個人での維持管理が難しい状況が見受けられるため、補助金制度を活用した改修事業を所有者、管理者と協議を進め、文化財の維持と保存のための支援を図る。</p>																							
<p><b>②事業・取り組みの進捗</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>推移</th> <th>計画への位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>重伝建落合地区修理修景事業</td> <td>22件の保存修理補助</td> <td>あり</td> <td>H18～</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」保存修理事業</td> <td>3年に1度の架け替え修理を27回</td> <td>あり</td> <td>S3～</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>登録有形文化財「山下家別邸」保存修理事業</td> <td>公開活用施設として整備</td> <td>あり</td> <td>H31～R2</td> </tr> </tbody> </table>					項目	推移	計画への位置づけ	年度	1	重伝建落合地区修理修景事業	22件の保存修理補助	あり	H18～	2	重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」保存修理事業	3年に1度の架け替え修理を27回	あり	S3～	3	登録有形文化財「山下家別邸」保存修理事業	公開活用施設として整備	あり	H31～R2
	項目	推移	計画への位置づけ	年度																			
1	重伝建落合地区修理修景事業	22件の保存修理補助	あり	H18～																			
2	重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」保存修理事業	3年に1度の架け替え修理を27回	あり	S3～																			
3	登録有形文化財「山下家別邸」保存修理事業	公開活用施設として整備	あり	H31～R2																			
<p><b>③課題解決・方針達成の経緯と成果</b></p> <p>●重伝建落合地区修理修景事業 平成17年に重要伝統的建造物群保存地区として選定を受けてから、個人所有民家を年に1棟～2棟のペースで、これまで22棟の修理修景事業を進め、伝建地区の良好な保存が進められ歴史的風致の向上を図ることができた。</p> <p>●重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」保存修理事業 蔓橋は、年間約30万人が来訪され、3年に1度の架け替えが、かずら橋保勝会より行われ、近年では令和5年度に架け替えが行われ、周囲の景観と共に良好な保存がされ歴史的風致の向上を図ることができた。</p> <p>●登録有形文化財「山下家別邸」保存修理事業 老朽化により屋根瓦や土壁が傷み雨漏りが見られるなど、修繕が急務となっていた当該物件を市に寄贈してもらい修理を実施し、井川地区のうだつの町並みの良好な町並み景観の形成を図ることができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <p>【柿平家住宅】修理</p>  <p>【かずら橋架け替えの様子】</p>  <p>【登録文化財「山下家別邸」】</p>  </div> <div style="width: 35%; font-size: small;"> <p>【柿平家住宅】修理</p> <p>【かずら橋架け替えの様子】</p> <p>【登録文化財「山下家別邸」】</p> </div> </div>																							
<p><b>④自己評価</b></p> <p>歴史的な建造物の保存と活用に関して、少子高齢化による空き家の老朽化によって、これまで多くの歴史的建造物が失われてきた。こうした中、空き家の利活用をすることによって「交流人口の増加」、次に歴史的建造物の修理復元等の事業を実施することで「文化財に対する意識の向上」・「景観保全」の成果に繋がった。これらはどれも「地域の活性化」として大きな成果としてあらわれた。</p>																							
<p><b>⑤今後の対応</b></p> <p>これから、ますます高齢化による人口減少が進んでいくが、引き続き積極的な活用を行い観光だけでなく、地域のコミュニティの場としても活用する。また、地元の子供たちへの教育としての活用も併せて行い、次世代へ残していく。</p>																							

市町村名	三好市	評価対象年度	H31～R5年
方針	Ⅱ 歴史的な建造物の 資材確保に関する方針	今後の対応	継続展開

①課題と方針の概要

【課題】茅葺き屋根である建造物や、シラクチカズラで架けられている重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」など、植物性資材を必要とする歴史的建造物は、定期的な修理が必要であり、従来と同品種、同品質の資材を確保することが必要である。しかし近年はその修理用資材の安定的な確保が困難な状況となっている。

【方針】重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」の資材となる「シラクチカズラ」や、伝統的建造物である茅葺き住宅の資材となる「茅」の確保を、地元各種団体等と連携し、確保に努める。

②事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置づけ	年度
1	茅葺屋根葺き替え資材確保事業	1,414束(2尺締)採取	あり	H28～
2	祖谷の蔓橋架け替え資材確保事業	150株国有林へ植樹	あり	H19～

③課題解決・方針達成の経緯と成果

【シラクチカズラ植樹の様子】

●祖谷の蔓橋架け替え資材確保事業

3年に1度の架け替えに必要な量は約6tであり、現在では高知県の国有林まで採取に入っている。こうした現状から、将来的な確保のために、地元徳島森林管理署と連携し、シラクチカズラの苗木を祖谷の国有林内に植樹を実施。現在順調に生育しており、20年後から30年後には材料として使用できる。



【茅刈りの様子】

●茅葺屋根葺き替え資材確保事業

茅葺屋根の材料であるススキを、地元の保存会等で耕作放棄された畑で茅を採取確保する事業を実施。これにより、修理用資材の確保が図られ、歴史的建造物の緊急用の修繕資材としても使用できるようになった。



【茅保管庫】



④自己評価

歴史的な建造物の資材確保に関して、祖谷の蔓橋の資材であるシラクチカズラは、生態的に使用できるまで20年～30年以上かかると言われており、1度採取してしまうと現在の森林環境では生育は難しく(周辺の木々に栄養が採られるため)、年々採取場所がなくなり、遠方へ採取するようになった。平成19年度に「祖谷の蔓橋架け替え資材確保実行委員会」を設立し、地元小中学生や関係団体に協力を頂けるようになり、植樹した苗木は順調に生育している。将来的な資材確保に前進できた。

⑤今後の対応

双方の資材確保については、引き続き事業を行っていくが、採取範囲(茅)、植樹範囲(シラクチカズラ)について、長期間計画を策定する必要がある。

市町村名	三好市	評価対象年度	H31～R5年
方針	Ⅲ 歴史的風致を形成する周辺の 景観整備に関する方針	今後の対応	継続展開

①課題と方針の概要

【課題】歴史的風致を形成する重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」、重要伝統的建造物群保存地区「三好市東祖谷山村落合」等を核とする「山村集落」や、池田町や井川町のうだつの町並みは、過去の高度経済成長や観光地化したことにより、景観にそぐわない建造物や工作物が建てられている。  
 【方針】文化財周辺の町並みや、自然的景観を阻害してしまう無秩序な屋外公告物については、三好市景観条例や徳島県屋外公告物条例を適用し、行為の制限を行う。各重点区域周辺においては、景観保全や自然的景観及び歴史的景観に配慮した修景を図っていく。

②事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置づけ	年度
1	景観整備事業	重伝建落合地区及び周辺 屋根塗り替え86棟・景観阻害建造物の解体1棟	あり	H22～

③課題解決・方針達成の経緯と成果

●景観整備事業

祖谷地方では、重伝建保存地区内にある景観にそぐわない色の屋根が多く存在していたため、平成22年度より景観条例による計画色での屋根の塗り替え補助を実施。これにより対岸から見る、伝建地区の歴史的風致は向上した。

祖谷の蔓橋付近では、高度経済成長期にお土産店等の店が多く立ち並んでいたことがあり、景観を阻害していた。その多くは村の時代に撤却されたが、世代交代などにより一部残っているものもあった。その中でも、景観を大きく阻害していた祖谷の蔓橋までの観光導線にある空き家売店が、令和5年度にかずら橋保勝会や観光協会などの関係団体の協力を得て、解体が実施された。歴史的風致の良好な景観が向上した。

【屋根塗り替え前】



【屋根塗り替え後】



【景観阻害建造物】解体前



解体後



④自己評価

歴史的風致を形成する周辺の景観整備では、伝建地区での屋根の塗り替え事業を実施したことで、景観の向上だけでなく、歴史的建造物全体の保存にも繋がった。また、地区住民の景観に対する考え方も統一された。祖谷の蔓橋での景観阻害建造物の撤去は、長い期間問題視されてきた案件であったが、継続して行われてきた歴史文化的な活動である蔓橋の架け替えと、各団体が団結したことによる成果と考えられる。

⑤今後の対応

引き続き、歴史的風致を向上していくための景観対策は実施していく。現在は祖谷が主だっているが、他地域にも波及させていく。

市町村名	三好市	評価対象年度	H31～R5年
方針	IV民俗芸能の継承とに担い手及び伝統技術者の育成に関する方針	今後の対応	継続展開

①課題と方針の概要

【課題】歴史的風致を形成する民俗芸能や建造物が多くあり、これまで地元保存会を中心にその保存継承に努めてきた。これまで保存継承を図るため、各種の助成事業により支援を行ってきた。しかし、近年の人口減少及び少子高齢化、若者の都市流失に伴う民俗芸能や伝統工法技術の後継者不足は深刻であり、古来の伝統的な形態が失われつつある。

【方針】担い手不足が深刻な無形の民俗文化財等の保存団体に対しては、市からの組織運営補助や文化関係補助事業により施設や用具の整備に対する支援を継続して行い、組織の維持と担い手の育成、基盤整備の支援を図っていく。また、各保存団体が行う広報活動、公演活動についても情報提供に協力し、保存活用の支援を図っていく。

②事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置づけ	年度
1	重要無形民俗文化財「西祖谷の神代踊」継承事業	天満宮へ神代踊り奉納時、西祖谷小中学生に参加(11回)	あり	H24～
2	祖谷の蔓橋架け替え継承事業	西祖谷小中学生に架け替え体験の開催(5回)	あり	H23～
3	急傾斜地農業継承事業	東祖谷小中学生ほか、苗植えから採取体験の実施(4回)	あり	H28～

③課題解決・方針達成の経緯と成果

●重要無形民俗文化財「西祖谷の神代踊」継承事業

少子高齢化に伴い、担い手不足が深刻化、平成23年には活動休止の話もあがったが、地元小中学生にふるさと学習として参加(練習も含め)していただくように事業を実施。また令和4年の11月にはユネスコ無形文化遺産にも登録され、活動に活気が戻り、貴重な文化財の大切さの継承を図ることができた。

【神代踊の練習の様子】



●祖谷の蔓橋架け替え継承事業

祖谷の蔓橋の架け替えの担い手不足も深刻化、架け替え期間中のみ対応できる人材は、現在の生業事情では見つけることが困難である。まずは、郷土愛を育むために地元小中学生に架け替えを体験してもらい、また蔓橋の重要性を知ってもらう学習会を実施。こうした活動を体験することで、貴重な文化財の大切さの継承を図ることができた。

【架け替え体験の様子】



●急傾斜地農業継承事業

ソバと共に昔から栽培されてきた「ヤツマタ」を残そうと、平成28年に祖谷雑穀生産組合が設立。令和元年からは、地元小中学生にも苗の植え付けから収穫まで、体験してもらい、地域の貴重なソルフードについて学んでいる。近年では子供たちが雑穀を使ったお菓子を作り、地元で開催するマルシェで販売するなどして、魅力を発信している。こうした活動により急傾斜地農業の文化継承を図ることができた。

【苗植え付けの様子】



④自己評価

民俗芸能の継承と担い手及び伝統技術者の育成では、現在の生業事情や、地域外に出てしまっていることで、担い手育成が十分とは言えないが、現在の活動にかかる経費を支援することにより、現時点での担い手の育成や確保、地域の活性化に寄与することができた。

⑤今後の対応

今後も、歴史や伝統を反映した民俗文化財や伝統産業の活動には支援を継続的に行い、担い手の育成や次世代への継承に繋げていく。

市町村名	三好市	評価対象年度	H31～R5年
方針	V 歴史的文化的遺産の掘り起こしと 価値づけに関する方針	今後の対応	継続展開

①課題と方針の概要

【課題】これまで保存、伝承されてきた歴史的建造物等の歴史的文化的遺産に対し、調査研究を実施し、歴史的に価値の高いものについては文化財指定や登録を進めてきた。しかしながら四国一の行政面積を有する当市はまだまだ十分に調査研究が出来ていないのが現状である。また市民の文化財に対する意識は、高まっているが十分とは言えず、近年の空き家の老朽化に伴い解体が進んでいる。  
 【方針】地域の歴史や文化に学ぶ学習内容を設けるとともに、学校教育では郷土学習や史跡めぐりの現地研修会を行い、地域の歴史と文化資源の再発見と文化財、文化の保護精神の育成を図る。

②事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置づけ	年度
1	佐野集落文化遺産総合調査事業	佐野地区案内マップの作成(1,000部)	あり	R4
2	歴史的文化的遺産の掘り起こしと保存・継承活動事業	名勝調査事業(報告書作成)	あり	R2～R4
3	国登録文化財推進事業	有形登録61件・記念物登録1件	なし	H18～

③課題解決・方針達成の経緯と成果

●佐野集落文化遺産総合調査事業

瀬戸内海側からの文化が伝えられる阿波と讃岐・伊予との国境の村里として交易・通過点として重要な地域であった佐野地区では、多くの歴史文化遺産が確認することができる。また六十六番札所雲辺寺への遍路道として、多くのお遍路さんが訪れていることから、佐野地区の歴史を感じていただくために散策マップを作成した。作成には佐野の住民に参加していただいたことで、地域の歴史と文化資源の再発見、価値づけに繋げることができた。

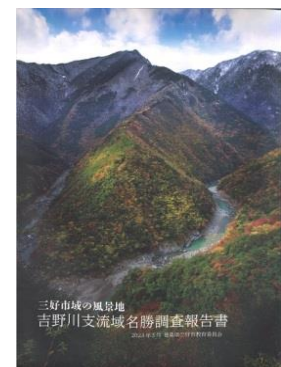
【散策マップ】



●歴史的文化的遺産の掘り起こしと 保存・継承活動事業

市内全域の名勝地を抽出し、地域資源の掘り起こしに繋がる事業として、令和2年度から令和4年度の3ヵ年実施。市内アンケートを実施し60箇所の歴史的風景地の掘り起こしができ、地域の歴史と文化資源の再発見、価値づけに繋げることができた。

【名勝調査報告書】



●登録文化財が残る町並み推進事業

計画的に歴史的建造物等の調査研究を実施し、歴史的に価値の高いものについては文化財指定や登録を進めてきたことにより、市民の文化財に対する意識が向上した。

【令和5年度に登録された2棟】



④自己評価

歴史的文化的遺産の掘り起こしと 価値づけに関して『名勝調査報告書』『文献調査報告書』などの作成によって、市内全域の調査が行えている。併せて市民の文化財に対する意識の向上にも繋げることができた。

⑤今後の対応

調査を実施することにより、新たな発見が多く更なる価値付けが行えた。当市にはまだまだ未着手である伝統的建造物などが多くあることから、今後も積極的に調査事業を進めていく。また、本市の歴史文化を情報発信し、歴史まちづくりに対する市民意識や認知度の向上を図る。

市町村名	三好市	評価対象年度	H31～R5年												
効果	I 観光交流客数の増加														
①効果の概要															
三好市を来訪する観光客数が増加															
②関連する取り組み・計画															
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度												
1	三好市総合計画	あり	H20～												
2	三好市観光基本計画	あり	H20～												
③効果発現の経緯と成果															
<p>当市は、日本全体の少子高齢化及び人口減少により、日本人観光客は減少する傾向を予想し、交流人口増加のため、次の3つの取り組みを行ってきた。</p> <p>①外国人観光客の受け入れのためにインバウンド事業として台湾・韓国・中国・アメリカ等の旅行会社への売り込みや、HPや案内表示の多言語化などを実施。</p> <p>②東祖谷地区の重要伝統的建造物群保存地区「東祖谷山村落合」の、空き家8棟の滞在型観光施設として整備を実施。</p> <p>③重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」の伝統的技法による3年に1度の保存修理を実施。</p> <p>以上の取り組みから三好市の観光客数は、祖谷の蔓橋で見ると認定後の平成23年度の303,189人と、令和5年度274,729人と約10%減少※しているが、内外国人観光客数は約10倍以上の増加が見られる。またコロナ以前の令和元年度と比べ、外国人観光客数の割合は全体の約16%と変わらず、コロナ規制が緩和されてからの回復を見ても、増加傾向にあると考える。</p> <p>これは、歴史的風致維持向上計画に位置づけた各種事業が、この結果の一助になったと推察される。</p> <p>※コロナの影響</p>															
【施設利用者数】															
施設名	年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	備考
祖谷の蔓橋		303,189	331,634	327,562	301,193	348,528	339,035	357,697	360,601	360,790	161,370	173,170	263,023	274,729	
内外国人 観光客数		4,318	8,541	14,293	20,719	32,010	42,308	53,075	54,194	61,446	7,827	1,472	8,658	45,406	
落合古民家宿泊者数		750	903	1,086	1,454	2,320	2,764	2,964	2,763	2,529	2,110	1,786	1,650	2,298	H26に8棟完工
長岡家住宅		30	1,063	862	1,280	1,989	1,735	2,824	3,346	2,824	926	750	1,093	2,168	H23.2月末に完工
阿佐家住宅		—	—	—	—	—	—	1,388	993	885	613	413	582	625	H29より公開
東祖谷歴史民俗資料館		1,810	4,004	1,988	2,103	2,026	1,873	1,788	1,609	1,552	878	750	1,128	1,140	H24 大河ドラマ「平清盛」
合計		305,779	337,604	331,498	306,030	354,863	345,407	365,273	368,319	367,695	173,724	178,341	276,134	280,960	
④自己評価															
<p>三好市を訪れる観光客数は増加傾向(コロナ禍除く)にあり、三好市の魅力が多くの方に発信されていることを確認することができた。こうした成果は、歴史的風致維持向上計画の取り組みが加えられたことが大きいと考えられる。</p>															
⑤今後の対応															
<p>今後も引き続き、市観光部署や観光協会などと連携を強化し、さらなる魅力の発信をしていく。また三好市へ観光客が流入する移動手段としてレンタカーや路線バスの使用が多いことから、観光客の利便性の向上を図ることが必要である。</p>															

市町村名	三好市	評価対象年度	H31～R5年
取り組み	登録有形文化財「山下家住宅別邸」 保存修理事業	種別	歴史的風致維持向上施設

①取り組み概要

重点区域吉野川中流域「池田町及び井川地区」に所在する当該建造物を令和元年度から令和2年度にかけ、外観は悉皆調査を実施し文化財修理を行い、内部は多目的室、厨房室などを設け、地区のコミュニティの施設として整備した。

【多目的室】



【厨房室】



【修理前】



【修理後】



②自己評価

歴史的風致形成建造物である当該建造物を、修理及び整備することにより、建造物の価値や魅力だけでなく、町並み全体の歴史的風致の維持向上に繋がった。

利用件数は、令和3年度59件、令和4年度76件、令和5年度79件と増加傾向にある。

外部有識者名

阿波まちなみ研究会 代表理事 坂口敏司

外部評価実施日

③有識者コメント

井川地区には登録有形文化財に登録された建物が数多くあり、繁栄した明治期から昭和初期の町並みが残されている。地域の伝統的な建築様式を踏襲し、文化財としての価値を失うことなく修理されたことを確認した。修理により町並みの魅力が向上した。修理後は、町並み保存会により食堂や土産品販売が行われ、地域の人や観光客が訪れ、地域のコミュニティ施設として活用されている。今後は、登録された他の建物も含め、空き家や取り壊されて空地となった場所が多く見られるようになり、地域全体を活用されることを望む。

④今後の対応

今後も引き続き、歴史的形成建造物の価値を損なわないよう十分に配慮し、保存していく。また地域のコミュニティの場として多くの方々に活用してもらえるよう取り組んでいく。

市町村名	三好市	評価対象年度	H31～R5年
取り組み	祖谷の蔓橋架け替え資材確保事業	種別	歴史的風致維持向上施設

①取り組み概要

シラクチカズラで架けられている重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」は、文化財の保存、伝統技術の継承のために3年に1度の架け替えが行われている。架け替えの材料には、シラクチカズラが使用され、毎回約6tもの材料が必要である。毎回の採取で、年々採取が困難になってきたことから、将来的な資材確保のために苗木を地元関係者でつくり、国有林へ植樹している。

【祖谷の蔓橋】



【苗木づくり】



【植樹】



②自己評価

当該事業を実施することによって、これまで担当課と保存会だけの懸案事項だったのが、地元住民、関係団体など、市全体で考え実施する事業に変化し、支援の輪が広がった。それに伴い祖谷の蔓橋の歴史文化についても再認識され、令和5年度には「世界の持続可能な観光地TOP100選」に選出されるなど、認知度が向上した。

外部有識者名	香川大学 特命教授 農学博士 片岡郁雄
外部評価実施日	

③有識者コメント

祖谷の蔓橋は、地域を代表する歴史的な文化財であるとともに、国内外から広く注目される特色ある観光資産であることから、その持続的な保全・継承は極めて重要な課題である。これを職種や世代を超えた地域の関係者・市民で共有し、将来不足が懸念されている架け替え材料のシラクチカズラの確保に向け、苗の増殖、蔓の育成に係る諸活動を長年に亘り継続できていることには大きな意義がある。また、この過程において、域内の当事者に加え、域外の関係機関との連携協力を拡大・強化し、苗の生育環境の改善や野生動物による食害回避等の方策を講じることで、次世代のシラクチカズラの確保に一定の成果が得られつつあり評価できる。さらに、本事業に関連し、シラクチカズラに関する地域学習や蔓の果実の活用などの活動も展開されており、人材育成、産業振興においても波及効果が認められる。

永年生植物であるシラクチカズラが架け替え資材として利用できるまでには、長い年月を要することから、本事業での取り組みも、持続的かつ面的な広がりをもって継続されることが強く望まれる。

④今後の対応

今後も引き続き、事業を継続し植樹エリアの拡大し資材確保に努め、祖谷の蔓橋を次世代へと保存継承していく。

市町村名	三好市	評価対象年度	H31～R5年
歴史的風致	吉野川支流祖谷川流域に残る歴史的風致(祖谷)	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的な建造物の保存と活用に関する方針 II 歴史的な建造物の資材確保に関する方針 III 歴史的風致を形成する周辺の景観整備に関する方針 IV 民俗芸能の継承とに担い手及び伝統技術者の育成に関する方針		
<p><b>①歴史的風致の概要</b></p> <p>祖谷地域は面積334 km<sup>2</sup>(三好市域の約46%)で、東端の剣山をはじめ、周囲を高山に囲まれた陰阻な山間にある。この地域に見られる建造物は、寄棟茅葺屋根であったことがわかる歴史的建造物が多く見ることができる。これは1,000m級の山々に囲まれ、古くから交通の難所であり、閉鎖的な環境であったことから自給自足の生活がなされ、現金収入が得られなかったことから、建造物に大きな改変が行われず、当時のままの姿形で残ったと思われる。急傾斜地での屋敷構えは独特であり、重要文化財である「木村家住宅」や「小栗家住宅」のように、主屋、隠居、納屋は等高線に沿って建ち並んでいる。これは山の斜面を切り開いて土地を形成しているためである。また前庭を支える石垣が正面に見られ、一段下がった斜面では畑が広がり、その畑を支える石垣も併せて見られ、祖谷地方ならではの歴史的風致が形成されている。</p>			
<p><b>②維持向上の経緯と成果</b></p> <p>●指定文化財保存修理事業                      祖谷地区に各指定文化財の保存修理に対し、三好市指定文化財保存修理等補助金により修理費の一部を助成した。これにより、祖谷地区の歴史的景観の向上など歴史的風致の維持向上が図られた。</p> <p>●歴史的建造物資材の確保                      植物性資材が多く必要な文化財建造物の保存維持のために、地元関係者等に参加してもらうことで、資材不足の危機感が共有され、積極的に確保してもらうことで、歴史的風致の維持に寄与することができた。</p> <p>●景観整備事業                      山村集落の景観に配慮した屋根の塗装に、支援を行うことで、景観は統一され歴史的風致は維持向上した。</p> <p>●伝統行事担い手支援事業                      祖谷の神代踊や、蔓橋等の民俗文化財に地元の小中学生が携わることで、各保存団体の文化財保存に対する意識が高まった。また、子供たちの地元に対する郷土愛も育まれることに寄与できた。</p>			
<p><b>③自己評価</b></p> <p>西祖谷の神代踊、祖谷の蔓橋、急傾斜地農業など、多くの歴史文化遺産が残されている祖谷地区で、各事業を実施したことにより、市民の文化財の意識の向上に寄与し、歴史的風致も向上した。</p>		<p>【市指定史跡「八幡神社」】 倒木による史跡倒壊</p>  <p>【市指定史跡「八幡神社」】 史跡修理後</p> 	
<p><b>④今後の対応</b></p> <p>少子高齢化に伴い継承が困難な状況であるが、引き続き各伝統的文化遺産の担い手育成には支援を行い、保存に取り組んでいく。また、多くの団体とも連携協力しながら、保存と活用について協議を行い更なる地域活性化に取り組んでいく。</p>			

市町村名	三好市	評価対象年度	H31～R5年
歴史的風致	吉野川上流域に残る歴史的風致(大歩危小歩危)	状況の変化	維持
対応する方針	V歴史的文化遺産の掘り起こしと価値づけに関する方針		

①歴史的風致の概要

大歩危と小歩危は現在では「地名」あるいは「地域名」として認識されているが、本来は地名というより「ハキ・ハケ・カケ・ガケ」などと同様に、切り立った崖を表す自然地形名称「ホケ」が地名化したものである。こうした地形で、明治24年から25年の工事にて開通した「四国新道」(現国道32号線)の開通により、道路から見える「大歩危小歩危」の景色は景勝地と呼ぶにふさわしく、大歩危小歩危峡を舟下りで観賞するようになってからは、観光地として広く認知されていった。こうした大歩危小歩危には、自然環境と住民の営みが一体になった歴史的風致が形成されている。

②維持向上の経緯と成果

●歴史的文化遺産の掘り起こしと保存・継承活動事業

令和2年度から令和4年度の3か年に名勝調査事業を実施し、大歩危小歩危の所在する山城町では、大歩危小歩危の風景地6箇所と山城谷の風景地11箇所が、調査対象地となり、その中の「藤川谷」は令和6年2月21日に登録記念物(名勝地関係)に登録された。

これにより、地域の歴史的文化遺産の掘り起こしに寄与することができた。また当該地域に残る妖怪伝承等の認知度が向上した。

【報道資料】



【調査対象地一覧】

No.	風景地群	風景地群 細区分	対象地	
			構成要素	概要
1	III 山城谷の風景地	祖谷川・伊豫川合流地域の風景地	大任峰からの眺望	四国山地の景観を展望
2			国見山橋からの眺望	吉野川の景観を展望
3			夫婦岩	川中の二つの岩
4			百度の嶺	百度の角度にせり出した崖
5		賢見神社	賢見神社	社殿配置と周辺の景観
6			岩戸影の枝垂桜	枝垂桜
7			平田岩(飯台岩)	神社を祀る岩石
8		黒川谷川の風景地	黒川谷ほたるの里	ゲンジボタル生息地
9			塩塚峰	草原から四国山地を展望
10		国政橋周辺の風景地	鮎戸瀬	小歩危下流の急流
11			国政橋からの眺望	小歩危下流の景観を展望
1	IV 大歩危小歩危周辺の風景地	白川谷の風景地	とびの巣蔵	渓谷、渓流と淵
2			JR第二吉野川橋梁	橋梁と大歩危小歩危の景観
3		こもり岩	岩山・岩石	
4		しずく嶺	大歩危小歩危と四国山地の景観を展望	
5		藤川谷の深淵	約二十の深淵群と渓流	
6		野鹿池山	シヤクナゲの群生地	

【妖怪伝承が残る藤川谷】



③自己評価

妖怪などの伝承と結びついている数々の深淵をはじめとする景勝地であり、近年、地域においてその再発見、継承活動にも活発に取り組まれたことは地域住民の文化財の意識の向上に寄与した。また認知度の向上も図られた。

④今後の対応

藤川谷の登録記念物(名勝地関係)での、継承活動や認知度向上のための支援を行い、周辺の環境と併せて保存に取り組んでいく。

市町村名	三好市	評価対象年度	H31～R5年
歴史的風致	吉野支流馬路川に残る歴史的風致(池田町佐野)	状況の変化	維持
対応する方針	V 歴史的文化遺産の掘り起こしと価値づけに関する方針		

①歴史的風致の概要

佐野は、阿波と伊予、讃岐の接点に位置し、交通の要衝地であった。また徳島県との国境にある四国霊場六十六番札所「雲辺寺」への遍路道もあり、佐野の町は交流の場で賑わい、宿場町や商家町としても栄えていった。こうした環境から登録有形文化財(建造物)でもある「古本家住宅」をはじめとする当時の姿を残す歴史的建造物も多く見ることができる。馬路川と平行する旧街道と町並みには、日々雲辺寺へ向かうお遍路さんの姿や、地元住民によるお接待の様子が一体となった町並みが見られ、池田町佐野の歴史的風致が形成されている。

②維持向上の経緯と成果

●佐野集落文化遺産総合調査事業

平成28年11月に、佐野地区に所在する遍路道「雲辺寺道」が国史跡に指定され、平成30年11月には、明治建築の「古本家住宅」が国登録文化財に登録されたことを受け、第2期計画の重点区域として設定し、地域住民と佐野集落文化遺産総合調査事業として、文化遺産を散策できるマップを作成した。これにより、地域の歴史的文化遺産の掘り起こしに寄与することができた。またお遍路さんに配布し散策してもらうことで、認知度が向上した。

【歴史的な町並みが残る佐野地区】



【池田町佐野散策マップ】



【散策マップ作成時の聞き取り】



【古本家住宅の見学会】

国史跡「雲辺寺道」、国登録「古本家住宅」など、多くの歴史文化遺産が残されている佐野地区で、当事業を実施したことにより、地域住民の文化財の意識の向上に寄与し、歴史的風致も向上した。



④今後の対応

佐野地区自治会と連携し、お遍路さんを対象にしたガイドの育成や、説明看板を設置し更なる地域活性化や認知度向上に取り組んでいく。

市町村名	三好市	評価対象年度	H31～R5年
歴史的風致	吉野川中流域に残る歴史的風致(池田町及び井川町)	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的な建造物の保存と活用に関する方針 V 歴史的文化遺産の掘り起こしと価値づけに関する方針		

①歴史的風致の概要

四国のほぼ中心に位置する池田町と井川町は、愛媛県、香川県を結ぶ主要な街道、また、吉野川水運との関わりが深く古くから交通に利用されてきたことから、多くの人々が往来し輸送の大動脈であり、多くの商家が立ち並び郷町と形成されていった。現在でも市指定文化財「旧真鍋家住宅」をはじめ、良好なうだつの町並みが見られ池田町及び井川町の歴史的風致が形成されている。

②維持向上の経緯と成果

●歴史的建造物保存修理事業

池田町のうだつの町並みにある市所有の市指定文化財「旧真鍋家住宅」の西門の老朽化に伴う保存修理を行ったことで、町並みの歴史的景観が向上した。

●登録有形文化財「山下家別邸」保存修理事業

井川町のうだつの町並みにある、市所有の国登録有形文化財「旧山下家別邸」の全体保存修理を行ったことで、町並みの歴史的景観が向上した。また内部は地域のコミュニティの場として、整備したことで地域活性化に繋がった。

●歴史的文化遺産の掘り起こしと保存・継承活動事業

井川町のうだつの町並みにある「旧四国銀行」、「旧熊谷家住宅」の2件4棟が国登録有形文化財に登録され、認知度の向上及び町並みの歴史的景観の維持に繋がった。

●文化財写真展

池田町のうだつの町並みにある市所有の市指定文化財「旧真鍋家住宅」において、文化財写真展を開催した。第1回は重要無形民俗文化財「西祖谷の神代踊」、第2回は重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」の古写真から現在までを説明付き展示を行った。これにより、来訪者に文化財に対する関心と理解を深めた。

【旧真鍋家住宅西門】修理前



修理後



【文化財写真展の様子】



③自己評価

池田町・井川町の核となる文化財を保存修理し活用することにより、地域住民の文化財に対する意識の向上に寄与した。また町並みの歴史的景観が向上し、認知度の向上も図られた。

④今後の対応

池田町及び井川町のうだつの町並みの認知度を高めるために、文化財を活用したイベントを企画し観光客の誘致を行い、地域活性化に取り組んでいく。

市町村名	三好市	評価対象年度	H31～R5年
歴史的風致	吉野川支流河内谷川に残る歴史的風致(三野町)	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的な建造物の保存と活用に関する方針		

①歴史的風致の概要

三野町は三好市の東端に位置し、北は讃岐山脈に奥深くのび、香川県の仲南町や琴南町と境を接し、南は吉野川の清流を挟んで三加茂町や半田町に接する。この地区では、溜池と三村用水を開発し水田を維持しつづけ発展し、徳島県西部一の稲作地帯を有した。この稲作地帯を維持するために、用水や溜池の管理をはじめ、武大神社での祭礼行事をおこなうなどの住民と一体となった活動が、三野町の歴史的風致を形成している。

②維持向上の経緯と成果

●歴史的建造物保存修理事業

三野町の中心部に所在する、国登録有形文化財「旧三野町役場庁舎」は、大正期の洋風建築として、三野町のランドマーク的な存在である。地域住民の要望により、文化庁の補助支援を受け耐震改修を実施。その後、1階を図書室兼学習室、2階を多目的室とした活用整備を行い、地域のコミュニティの場と整備した。これにより歴史的景観の向上及び地域活性化に繋がった。

【登録有形文化財  
「旧三野町役場庁舎」】



【2階多目的室】



【1階図書室】



【1階学習室】



③自己評価

旧三野町役場庁舎を図書室及び多目的室に整備したことで、市民団体でのイベントが盛んに行われるようになり、地域活性化に繋がった。

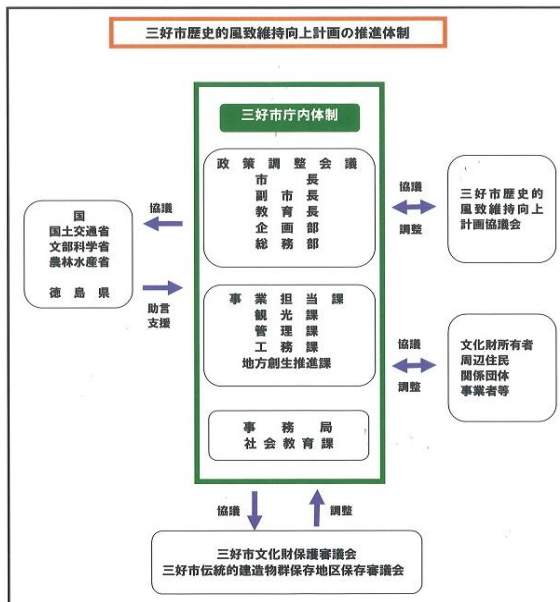
④今後の対応

市民団体による活動と連携を図りながら、地域住民や来訪者にPRを行い、引き続き取り組みを推進していく。

市町村名	三好市	評価対象年度	H31～R5年
------	-----	--------	---------

① 庁内組織の体制・変化

計画の推進にあたり、事務局(社会教育課)と観光課が中心となり、その他事業担当部署で連携を図り、事業を進めてきた。当該事業の進捗状況について、毎年庁内関係部署とともに三好市歴史的風致維持向上計画協議会(以下、協議会という。)において評価いただき、ご意見をいただいた。次年度事業の実施については協議会の委員の方々に現場を確認していただき進めてきた。これにより、各事業実施が円滑に進められた。



② 庁内の意見・評価

- ・歴史的風致維持向上計画を策定し、他部署と情報を連携しながら事業を実施していく体制の構築に繋がった。
- ・歴史的風致を活用したまちづくりには、住民をはじめ多くの人の理解を促進することが望ましく、歴まち事業の進捗・効果などを、より積極的に外部へ情報発信していく必要がある。

市町村名	三好市	評価対象年度	H31～R5年
------	-----	--------	---------

①住民意見

●市民意識調査

(調査内容)

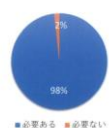
三好市歴史的風致維持向上計画のこれまでの取り組みについて、以下の各項目についてアンケートを実施。  
(令和6年3月1日～31日実施)

アンケート対象者：観光協会・各ガイド団体・文化財講座受講者

①三好市が歴史的景観都市に認定されていることをご存知でしょうか。



②歴史的・文化遺産を活かした、まちづくりに取り組む必要があると思いますか。



③歴史的・文化遺産を活かした、まちづくりに関わってみたいと思いますか。



④歴史的な遺産や、それらが作り出す雰囲気は良くなったと感じますか。



(住民意見)

三好市の歴史まちづくりに期待すること、提案などのアンケートを実施。

(令和6年3月1日～31日実施)

アンケート対象者：観光協会・各ガイド団体・文化財講座受講者

※以下、抜粋

- ・三好市の歴史・文化財の周知(宣伝)方法として、VRを活用した歴史の体験ができればよい。
- ・平家伝説に関する話や古民家なども点在しているので、まとめたパンフレットなどがあれば、歴史に興味がない方でも見てみたい、行ってみたいに繋がるのではないか。
- ・歴史まちづくりが、地域のコミュニティ作り、地域活動に繋がることを地域住民の方々に知っていただきたい。そのための取り組みを行うことが必要と思います。
- ・各地域に残る歴史文化遺産を残すには、それぞれの地域で中心となる人や、グループを支援し育成する取り組みを行うことが必要と思います。

②協議会におけるコメント

・重伝建落合地区修理修景事業や山下家別邸保存修理事業などにより、歴史的建造物の保存は一定の成果を上げているものと考えられます。一方、活用という観点からは、十分とは言えない部分があると思われます。そんな中、山下家別邸は地元有志の活動拠点として利用され、活用のために修理が行われたという今後のモデルとなるべきプロセスを形成しています。今後は、山下家別邸をモデルに、地域住民と歴史的建造物の良好な関係作りを期待します。

・茅やシラクチカズラなどの歴史的建造物の資材確保については、少子化、高齢化が進む中、長期的な計画を立てるなどより持続可能性の高い体制構築が必要と考えます。同様に、民俗芸能の担い手や伝統技術者の育成についても、長期的なビジョンに立った持続可能な仕組みづくりが必要と考えます。

・令和元年度から令和5年度はコロナ禍の影響を受けた時期であり、令和2～3年にかけては環境入込客が半減するしていたが、順調に回復しているように思えます。これは、三好市の本物の歴史的風致の力だと考えられ、今後とも本物を活かした各種施策を期待します。

・地域の歴史的風致を活かしたまちづくりを進めるためには、歴史的文化遺産の掘り起こしや歴史的景観の維持向上は不可欠です。今後とも、現在の取組を積極的に進めていかれることが重要だと考えます。

・かずら橋の架け替えは今後職人さんの育成、神代踊の踊り手の継承などこれからの5年間で、考えていかないといけないも多いと思いますが、これまでの活動は十分活かされていると思います。

・祖谷地域はだいが景観の整備が整ったと思うし、住環境も山間部は過酷なため、人口増も期待できない以上、今後重点的に活用するのはアクセスがしやすい場所のほうが良いのではないかと思います。

・井川町辻にある「山下家別邸」は朝市も継続して開催したり、茜の杜の活動や子ども食堂など新しい取り組みの現場となっており、整備した効果が出ていると思う。

市町村名	三好市	評価対象年度	H31～R5年
<b>①全体の課題</b>			
<p>1. 歴史的建造物の保存・活用に関すること</p> <p>①老朽化が進んで、維持経費に係る負担が重くなっている。それに伴い改修等の保存事業が進まず一層老朽化が進んでいることが課題である。</p> <p>②相続人がおらず空き家が増加してきていることが課題である。</p> <p>2. 歴史的な建造物の資材確保に関すること</p> <p>①シラクチカズラのような、条件が揃わなければ生育しない植物は採取すれば減少し、材料確保が困難になってきていることから、採取後の環境整備を含めた計画を検討する必要がある。</p> <p>3. 歴史的風致を形成する周辺の景観整備に関すること</p> <p>①一部の観光地では、景観を阻害する看板が建てられたことから、波及しないよう関係計画と併せた指導を検討する必要がある。</p> <p>②人口減少による、耕作放棄地が増えてきたことで、往時の景観は大きく変化し、歴史的風致の維持に大きな影響を及ぼしていることが課題である。</p> <p>4. 民俗芸能の継承と担い手及び伝統技術者の育成に関すること</p> <p>①後継者不足(少子化・若者の都市流出等)、指導者の高齢化による担い手の育成が困難になってきていることが課題である。</p> <p>5. 歴史的文化遺産の掘り起こしと価値付けに関すること</p> <p>①市民の文化財に対する意識は、高まっているが十分とは言えず、近年の空き家の老朽化に伴い解体が進んでいる。こうした建造物の中には歴史的な価値が高いのも少なくない。今後も、歴史的価値の高い文化遺産が掘り起こされず失われていくことが課題である。</p>			
<b>②今後の対応</b>			
<p>1. 歴史的建造物の保存・活用に関すること</p> <p>①文化財として指定されているものについては、保存と活用の充実、強化に努める。特に維持のための改修が必要な建造物については、可能な限り支援を行う。その他の歴史的建造物については個別の詳細調査を行い、条件を整えた物件から文化財等の指定を進め、支援ができる体制づくりに取り組む。</p> <p>②空き家バンク登録制度の活用を進め、貸し手/借り手・売り手/買い手のマッチングなど、空き家情報の共有化を勧める。また地域としての維持管理の仕組みづくりにも取り組む。</p> <p>2. 歴史的な建造物の資材確保に関すること</p> <p>①資材を採取できるエリアの調査及び、資材(植物)の生態の調査を併せて行い、採取後の環境整備計画を策定する。</p> <p>3. 歴史的風致を形成する周辺の景観整備に関すること</p> <p>①徳島県屋外広告物条例・三好市景観条例に基づいて、設置者へ景観上の改善を促していく。</p> <p>②耕作放棄地では、労働時間や作業負担が少ない作物や、鳥獣被害を受けにくい作物を栽培、また耕作放棄後に植生するものにススキがあることから、茅葺屋根の材料として再利用を検討する。</p> <p>4. 民俗芸能の継承と担い手及び伝統技術者の育成に関すること</p> <p>①きめ細かな記録作成等を行い、映像でも継承できる資料づくりを検討する。また体験教室やイベントの開催等により、公開活用や文化財保護に対する理解と保護意識の向上を図る。このほか、地道に伝統技術の継承と保存活動に関わる地域団体、市民団体、保存団体等の育成、支援に努める。</p> <p>5. 歴史的文化遺産の掘り起こしと価値付けに関すること</p> <p>①各種の啓発活動を通じ、文化財の保護活用に関する市民の意識を高めるとともに、情報の収集と実態調査を行い、市の歴史や貴重な文化遺産を解明し、文化財の保存に向けた価値づけに努める。</p>			